科目区分：幼年教育科目
授業科目：幼児と造形表現

授業評価・授業研究報告

美術教育講座 屋宜 久美子

授業の目的と概要

本科目は主に１回生を対象としたもので、受講生は30名であった。授業は幼児の造形表現への理解を深め、発達に応じた材料・用具の選択、活動の立案、適切な支援ができるようになることを目的に実施した。授業の到達目標は以下４点である。

（1）造形表現に必要な用具の種類と使用方法を説明できる。
（2）各課題の特徴的な技法を習得しそれを基に意欲的に製作できる。
（3）各課題実施上の注意点や発達に応じた支援について説明できる。
（4）幼児を惹きつける活動の立案ができる。

授業内容

授業では以下の内容で講義と実技製作を行なった。

第１回	ガイダンスと名札製作
第２回	絵の具を用いた造形表現:モダンテクニック
第３回	廃材を用いた造形表現：玩具
第４回	紙を用いた造形表現：張り子
第５回	粘土を用いた造形表現:小麦粉粘土
第６回	版を用いた造形表現:スチレン版画
第７回	自然素材を用いた造形表現:オーナメント
第８回	造形表現活動の立案、まとめ

造形表現では絵の具ひとつをとっても様々な種類があり、目的に応じた選択が必要となる。そのため造形表現に必要な幅広い用具の種類を把握した上で、本時で使用する用具の扱いを説明できることが重要である。また表現活動では様々な技法を用いるため、それらの技法をつかいまずは学生自身が意欲的に製作に取り組みながら幼児にとっての表現の楽しさを見出していくことも求められる。さらに幼児は年齢によって様々なものを口に入れる可能性があるため、幼児の動線を理解した環境構成の工夫も求められる。材料を食品で代用したり、ハサミの使い方を年齢によって変更したりするのは、このような造形表現を実施する上での配慮に基づいている。年齢に応じた支援は表現活動を実施する上で、最も重要な課題となる。全８回の授業では、このような注意点を考慮しながら実施した７回の基礎知識に関する講義と実技製作を通して、用具、技法、支援について学習できるように内容を構成している。また、最終的にはこれまで学習してきた内容を元に造形表現活動を学生が自ら立案して授業のまとめとした。

授業実施上の工夫

授業では絵の具や版画インクといった基本的な用具は用意しておくものの、版画の材料となるスチレン容器やオーナメントで使用する植物など、各自材料を用意してくることを自主学習の課題とした。そうすることによって、幼児教育において使用頻度の高い材料を手に入れる方法を考え、事前準備の必要性を実感できるからだ。回数を重ねるごとに学生の準備が丁寧になり、必要最低限の道具ではなく授業の中で選択できるように複数の材料を工夫して持ち込む姿が見られるようになっていった。材料の選択が表現活動へもたらす影響と事前準備の重要さを実感できたことを示すと言える。また製作工程を学生にわかりやすく伝えるために、工程の多い製作は動画を作成して手元の活動が見えやすいようにした。

授業の感想

最後の授業のまとめとして授業の感想を自由記述により集め 29 名の回答を得た。全体的にこれまで体験したことのない製作が楽しかったという内容が多かった。その中でも最も多かった記述は「安全性」に関する項目で、13 名より「たくさんのところで幼児の安全に配慮していること」や「道具を食材で対応」する方法を知ったなどの記述があった。次に多かったのが「年齢に伴う用具と活動内容の違い」が 9 名、次いで「様々な用具や技法」が７名であった。授業の到達目標が用具の使用法、技法の習得、発達に応じた支援、活動の立案であることを考えると、これらの記述より本授業は学生にとって授業目標を達成させるものであったと言うことができる。